MAINICHI
毎日新聞
発行所：東京都千代田区一ツ橋1-1-1 〒100-8051 電話（03）3212-0321
毎日新聞東京本社　郵便振替口座 00180-3-2900
©毎日新聞社 2006

HEIWA
http://www.heiwanet.co.jp/
HEIWAは、Jリーグのオフィシャルスポンサーです。

NEWSLINE
30秒間に懸ける　9
となりの達人
顧客企業に代わり電話で契約を取ったり問い合わせに答えたりするコールセンター。トランスコスモスの河野洋一さんは、あの手この手の電話術を考案しては、オペレーターに指南する指揮官だ。
CIA不当拘束疑惑　6・7
特集・毎日国際交流賞　16・17
「終夜照明」乳幼児の脳に影響　29
オピニオン 4　政治・社説 5　国際 6 7　経済 8 9　蒼・将棋 9　証券・株価 10 11
生活・家庭 13　小説 13　スポーツ 20 21 23　地域 25 27　事件・話題 29　社会 30 31

お天気

高気圧に覆われ、湿った空気が流れ込む。東北や関は日中晴れるが、一が多い。信越は雲で所々でにわか雨

1～6月人口動態

出生数6年ぶり増

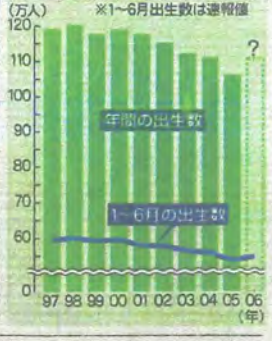
雇用改善など影響か

厚生労働省は21日、今年上半期（1～6月）の人口動態統計速報をまとめた。出生数は前年同期に比べ1万1618人増の54万9255人で、上半期ベースで00年以来6年ぶりに前年を上回った。同省は雇用の改善傾向に伴う結婚件数増加や人工中絶の減少が原因ではないかと分析。05年に1・25と過去最低を更新した合計特殊出生率（1人の女性が一生に産む子ども数に相当）は97年以降前年割れ・横ばいが続いているが、06年は上昇に転じる可能性ができた。

06年の月別出生数を前年同月と比べると、1月は前年を下回ったものの、2～6月は5カ月連続で増加。5カ月連続増は00年の8～12月以来5年半ぶりだ。06年下半期（7～12月）の出生数が例年のペースを維持すれば、06年通年の出生数も00年以来6年ぶりに前年を上回ることになる。

出生数が増加に転じた背景として、厚労省は景気回復に伴う雇用者数の増加を挙げる。男性の雇用者数は05年6月以降13カ月連続で前年同月を上回っている。結婚数も05年後半から増え、06年上半期は05年同期比1万936組増の36万7965組となった。上半期ベースで結婚数が前年を上回ったのも6年ぶり。

人口動態統計の出生数の推移
※1～6月出生数は速報値

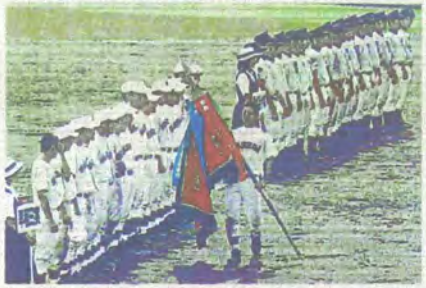


夏の甲子園

早実 初優勝

再試合4―3 駒苫V3阻止

●【駒大苫小牧・早稲田実】最後の打者、駒苫・田中を三振に打ち取り、ガッツポーズをする早実・斎藤＝阪神甲子園球場で21日、望月亮一写す ●優勝旗を手に笑顔を見せる早実・後藤＝小関勉写す



第88回全国高校野球選手権大会（日本高校野球連盟、朝日新聞社主催）の決勝再試合は21日、阪神甲子園球場（兵庫県西宮市）で行われ、10年ぶり27回目出場の早稲田実（西東京）が4―3で4年連続6回目出場の駒大苫小牧（南北海道）を降し、初優勝を飾った。駒大苫小牧は、戦前の中京商（現・中京大中京）以来73年ぶり2校目の3連覇を目指したが、かなわなかった。（3面にクローズアップとひと、スポーツ面に詳報、社会面に関連記事）

再試合は前日に続き早稲田実の斎藤佑樹投手（3年）と駒大苫小牧の田中将大投手（同）が登板。駒大苫小牧は九回、2点本塁打で1点差に迫ったが、斎藤投手に抑え込まれた。20日の決勝は息詰まる投手戦となり、延長15回1―1で大会規定により、37年ぶりの引き分け再試合となった。

閉会式で脇村春夫・日本高野連会長は「球史にさんぜんと輝く決勝戦に感動した。両チームの奮闘をたたえたい」とあいさつした。【野村和史】

一日一日強さ実感

早稲田実・和泉実監督　88回待ちましたから本当にうれしい。選手にはありがとうとしか言えない。一日一日強くなったのを実感した。OBの後押しも大きかった。

選手をたたえたい

駒大苫小牧・香田誉士史監督　うちの選手もよくやった。たたえてやりたい。4対1でなく、4対3にしたのがうちの選手のすごさ。あと1点は斎藤君の素晴らしさだ。

甲子園に来て948球目、2日連続の決勝で296球目となった早稲田実・斎藤のストレートが駒大苫小牧の最後の打者、田中に向かっていった。壮絶な決勝を投げ合ったライバルのバットは、144㌔の速球に空をきる。恐るべき球威を斎藤は最後まで保ち、2試合で5時間33分に及ぶ戦いに決着をつけた。

4日連投となるこの日の朝、斎藤は意外にも疲れを感じていなかった。延長15回の死闘を演じて宿舎に帰った前夜、早稲田実の選手は交代で「高気圧カプセル」の中に入っていた。カプセルは1人が横になって入れる程度の大きさ。酸素供給度の高いカプセルの中に1時間前後いることで酸素を多く体内に取り入れ、疲労を回復する。サッカーのイングランド前代表、ベッカムが使って話題を呼んだ、通称「ベッカムカプセル」だ。

「センバツの時は使っていなかったが、今回は体の回復度合いが違う」と斎藤。37年前、松山商と三沢の決勝が引き分け再試合になった時代には考えられない科学の力を借りて、早稲田実の選手は2日連続の決勝に臨んでいた。

熱投948球 クールなエース涙

八回の打席を終えてベンチに戻った斎藤は、携帯用酸素を一口吸って冷静を取り戻し、最終回のマウンドへ向かった。

駒大苫小牧の3番・中沢竜也（3年）に中越えの2ランを浴びて1点差に迫られたが、こん身の投球で続く3人を退けた。

今春のセンバツでは関西（岡山）との引き分け再試合を含む3日連投を経験したものの、力尽きた。身長176㌢、体重70㌔。投手として恵まれた体格とはいえない。しかし、夏に向けてフォームの改造に取り組んだ。その結果、春は140㌔前後だった速球は、九回、前日の十五回に続き144㌔をマークした。

淡々と投げ抜いてきた斎藤は青いハンドタオルで、夏の甲子園では初めての涙をぬぐった。

1回からこの大会に出ている早実が成し遂げられなかった優勝を果たせた。その重みを感じる。斎藤はいつもこのタオルを使う。ゲンかつぎのためだが、袖で汗をふいていると汗が指先まで流れて滑ることもある。そんなことまで考えて早稲田実の選手は野球をしていたのだ。【滝口隆司】

地域格差是

自民　総裁選　麻生氏

麻生太郎外相は21日午後、自民党本部で記者会見し党総裁選への立候補を正式表明、「日本の底力」と題した自身の政権構想を発表した。麻生氏は「地方経済を考えなければならない。地域間格差はある程度、一定にするのが政治の責任だ」と述べ、地域間格差の是正を強調。消費税引き上げについて「直接税がいくら伸びるかわからない段階で、何年にいくら上げるというのは極めて軽率のそしりを免れない」と

五輪招致

「東京

福岡市と東京都が目指す2016年夏季五輪招致で、日本オリンピック委員会（JOC）の国内立候補都市評価委員会（委員長・林務JOC専務理事）が21日、最終の会合